

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	健康科学ジャーナルの創刊によせて
作成者（著者）	山崎, 純一
公開者	FD 委員会 研究推進検討会 (東邦大学健康科学部)
発行日	2018.06.30
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 1(1). p.3 4.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD18821158

健康科学ジャーナルの創刊によせて

学校法人東邦大学
学長 山崎純一

この度は、健康科学部看護学科の開設と第1巻健康科学ジャーナルの発刊、誠におめでとうございます。ジャーナルの発刊にあたりまして、健康科学部開設の経緯などを含めて述べさせていただきます。

本学習志野キャンパスには薬学部・理学部があり、平成29年4月から新たに健康科学部看護学科が加わり、大森キャンパスの医学部・看護学部を併せて、東邦大学は5学部からなる自然科学系の総合大学となりました。建学の精神「自然・生命・人間」を掲げ、「自然に対する畏敬の念を持ち、生命の尊厳を自覚し、人間の謙虚な心を原点として、かけがえのない自然と人間を守るための、豊かな人間性と均衡のとれた知識・技能を育成する」を教育理念とし、これまでも高度な教育・研究が行われてきました。さらに、本学には大森、大橋、佐倉に3つの医学部付属病院があり、佐倉病院に隣接して佐倉看護専門学校（佐倉看専）があります。新たに健康科学部看護学科を千葉県に開設した理由は、優れた知識・技能、豊かな人間性をもった看護師の育成のため4年制看護教育の必要性を認識した結果と言えます。

ここで、健康科学部看護学科開設までの経緯についてお話させていただきます。

前述した佐倉看護専門学校は、平成3（1991）年4月に入学者42名を迎え開校し、今年で27年目を迎えました。一方で、我が国は超高齢社会を迎え、疾病構成の変化や医療の高度化などに伴い、看護においても質の転換が求められていました。そこで、本学においても青木名誉学長を委員長として、第1回佐倉看護専門学校（看専）将来構想委員会が平成23年3月に開催されました。少子化に伴い、優秀な学生の確保が困難になり、また、看護師国家試験受験資格として4年生大学卒が望ましいとの流れなどから、佐倉看専の4年制化の機運がさらに高まってきました。そして、第2、3回の佐倉看専将来構想委員会を経て、佐倉看専の4年制化が決定しました。

私は、平成24年7月に学長に就任し、佐倉看専将来構想委員会を改め佐倉看専四大化準備委員会（委員長：山崎、準備室長：遠藤英子教授）を立ち上げました。第1回佐倉看専四大化準備委員会は、平成24年9月に開催され、四大化構想の再確認、新たな学部を新設し看護学科を設けること、習志野キャンパス内の設置が承認されました。その後、度々開催された設置準備委員会にて、名称を健康科学部看護学科とすること、定員数60名、平成29年4月の開設などが決定しました。習志野キャンパスには、新たに健康科学部棟が建設され、平成28年10月22日には、多くの関係者を招待し健康科学部棟竣工記念式典が挙行されました。千葉県には、本学を含め多くの大学に看護学科が新設されており、志願者の動向が心配されましたが、多くの受験生が集まり、優秀な新入生を迎えることができました。

一方、我が国の高齢化は進行し、2035年に65歳以上の人口割合が33%前後に達すると予測され、複数の疾病を合併した高齢患者に対応する総合診療や在宅診療、そして生活習慣病を含む慢性疾患に対する管理が求められることとなります。このため、チーム医療の推進は必須であり、医療の質的改善を図るため、コミュニケーション・情報の共有化・チ

ームマネジメントが重要となります。特にチーム医療の一員の中で看護師の役割は大きく、健康科学部では、有能かつリーダーシップを発揮できる看護師の育成に努めます。

日本看護協会は、2025年に向けて「看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～」を掲げ、新たな医療の在り方と看護の役割について2015年に公表しました。その中で、看護師の役割についての提言では「①患者に最も近い医療人であり、常に患者の状況を把握し医療・看護を提供する ②予防医学を推進する ③チーム医療ではキーパーソンとして活動する」などが挙げられています。

健康科学部では、将来を見据えた看護教育を推進し、高い知識・優れた技能を有し、人間性豊かな看護師の育成に努めて欲しいと願っています。

新たに発刊された「健康科学ジャーナル」が、皆様方の研究のサポートとして、さらに看護教育の一助となることを期待致しております。